

大林組／国内全現場で顔認証入退場管理システム導入へ／CCUSや建退共と連携

大林組は建設事業でデジタル化を推進する一環として、国内の全建設現場に顔認証を活用した入退場管理を取り入れる。建築は2020年度に全現場へ導入。土木は順次導入を検討する。NECによる入退場管理サービスを活用。顔認証により取得した入退場情報を、20年度下期からは認定基幹職長（スーパー職長）と認定優良クレーンオペレーター（スーパーオペレーター）の手当支給に必要となる従事日数報告書にも連携させる。今後は、建設業退職金共済制度（建退共）の証紙の請求処理業務などにも活用していく予定だ。

本運用が始まっている建設キャリアアップシステム（CCUS）や、21年度から本格実施される建退共の電子申請を見据えた取り組み。CCUSに蓄積した就業履歴データが作業員の退職金計算に活用されることになり、就業履歴を正確に登録する必要性がより高まることから、顔認証を取り入れる。

導入するのは「建設現場顔認証 for グリーンサイト」。作業員が現場に入退場する際にタブレット端末やスマートフォンなども用いて顔認証による本人確認を行う。位置情報も取得することで、誰がいつどこで入退場したかを正確に把握できる。顔認証とMCデータプラス（東京都渋谷区、飯田正生社長）による安全書類管理サービス「グリーンサイト」の通門管理システムと連携しており、グリーンサイト経由で就業履歴がCCUSにも自動登録される。

入退場情報を、20年度下期からは認定基幹職長（スーパー職長）と認定優良クレーンオペレーター（スーパーオペレーター）の手当支給に必要となる従事日数報告書にも連携させる。今後は、建設業退職金共済制度（建退共）の証紙の請求処理業務などにも活用していく予定だ。

本運用が始まっている建設キャリアアップシステム（CCUS）や、21年度から本格実施される建退共の電子申請を見据えた取り組み。CCUSに蓄積した就業履歴データが作業員の退職金計算に活用されることになり、就業履歴を正確に登録する必要性がより高まることから、顔認証を取り入れる。

導入するのは「建設現場顔認証 for グリーンサイト」。作業員が現場に入退場する際にタブレット端末やスマートフォンなども用いて顔認証による本人確認を行う。位置情報も取得することで、誰がいつどこで入退場したかを正確に把握できる。顔認証とMCデータプラス（東京都渋谷区、飯田正生社長）による安全書類管理サービス「グリーンサイト」の通門管理システムと連携しており、グリーンサイト経由で就業履歴がCCUSにも自動登録される。

顔認証により取得した入退場情報を用いて建退共の請求処理業務を行うことで、大林組と協力会社の双方の業務の効率化につなげる。

記事ID : 3202006160303